

GreenWind 市政報告・活動報告 4

箕面市議会議員

市民クラブ

うらかわ

のりこ

浦川 倫子



皆様の気づき、お声を聞かせてください。

皆さん、こんにちは！ 市議会議員になって、1年と9か月が経ちました。早いものでそろそろ折り返しです。引き続き、皆様とともに市民の声が届く箕面を目指し頑張ります。

今回は、令和8年第1回定例会を中心に報告します。

本議会、委員会は YouTube にて視聴が可能です。

箕面市議会 検索

政策会派・常任委員会での視察



長野県 飯田市

① ゼロカーボンシティ事業や、地域環境権条例策定経過と現状

飯田市は1996年に「環境文化都市宣言」、2021年に「いいだゼロカーボンティ宣言」を行い、具体的な環境施策を実施しており、首長が変わっても様々な政策が続いています。



飯田市議会議長、議会改革委員長と飯田市議場にて

② 飯田市の公民館を中心とした地域自治の取り組み現状と課題

まちづくりに市民参加・参画が進んでおり、環境施策にも積極的に市民が参加しています。市民意見交換会には、令和6年度(2024年度)では8会場で545人の参加と1,240件の意見が出され、1,000件を超える意見をまず6つに分類して委員会にて取り扱い、政策提言や議案立案までの流れがあり、市民にフィードバックされていました。その住民自治の起点は公民館活動にあると知りました。

③ 議会改革のさまざまな取り組みとその成果

議会主導での市民参加による自治基本条例を策定し、議会改革を実行されています。全議員での意見集約方法など「住民の福祉の増進」に基づいた動きを学びました。

愛知県 豊田市 / 名古屋市

※フレイル予防…加齢に伴い心身の活力が低下した状態（フレイル）を早期に発見し、健康な状態へと改善・進行を遅らせるための取り組みのこと。

● 豊田市：SIB活用のフレイル予防政策

豊田市が行っている全国初のソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)を活用した成果報酬型の官民連携介護予防事業について学びました。この形で成果報酬型でないものなら、本市でも実施可能かもしれません。



豊田市の議場にて民生常任委員会の皆さんと



名古屋市視察の様子

● 名古屋市：フレイル予防アプリや老年大学鯉城学園

名古屋市は長きに渡り高齢者の社会活動への参加を促進し、フレイル予防への取り組みにもつながっていました。フレイル予防アプリは、実施からおよそ2年の事業で、名古屋市立大学と連携し、検証を進めておられました。超高齢化社会目前の社会において、フレイル予防は重要な課題です。学びの機会や外出の機会と掛け合わせての健康増進を学びました。

内面に続きます↓

令和8年第1回定例会

民生常任
委員会

■ 予算審議と補正予算

● 第24号議案「箕面市立総合保健福祉センター条例改正の件」(調理実習室廃止)

- ? 調理実習室にある食器や調理器具の利活用は。
- 調理実習室内の調理器具等は、調理実習室のある生涯学習センターなどの施設等で活用してもらうことを考えている。

補正予算

● 豊能広域こども急病センター事業費の補正

- ? 患者減少での増額補正の解決策は。
- 曜日ごとの体制を構築、会議や連携に加え、国に初期救急医療機関への補助制度の拡充を要望している。

当初予算

● 福祉人材確保に係る補助金制度対象者数の算出根拠と、その背景について

- ? 豊中市と違って新規採用者を対象にした理由と、その効果測定は。
- 介護に関わる人を増やし、1年後に定着者数をみる。

● そのほか

- 国民健康保険料の障害者減免制度廃止後の制度移行支援臨時事業の現状と今後について
- 多世代交流センターの浴場を再開しなかった理由と浴場スペースの再整備内容について
- 歯科健診受診率向上の目標値と若年層への周知方法について
- 一般廃棄物処理計画策定の目的と事業費の根拠について

権利擁護や認知症事業、ACP人生会議について、市立病院の人員体制と建設状況について、質問しました。

市立病院について

Q 現在の病院の人員体制は。

A 医師が105名、看護職が336名、薬剤師が30名、臨床検査技師が33名、診療放射線技師が17名、管理栄養士が9名、臨床工学技師が9名、理学療法士が21名、作業療法士が9名、言語聴覚士が3名、視能訓練士が4名、看護補助職が70名、事務職が100名、救急救命士が6名、合計で752人(2026年2月1日現在)。



さらに、「病院に残ってくれた職員の子育てや介護との両立についての調査」、「人材確保補助金の要綱」について、わかりやすく記載してもらうように要望しました。

箕面市議会 令和8年第1回定例会民生常任委員会 (令和8年3月10日)

YouTubeにて視聴が可能です



臨時民生常任委員会

追加で開催された民生常任委員会で「箕面市高齢者等介護総合条例改正の件」について質疑し、意見を述べました。

POINT → 「手取りを増やす」政策から、一部の層の介護保険料が上がる。また、他市は自治体減免規定に「市長が特に必要と定めるとき」等の規定があるための違いも指摘しました。



箕面市議会 令和8年第1回定例会 民生常任委員会 (令和8年3月13日)

YouTubeにて視聴が可能です



● 動議「大阪広域水道企業団規約等の変更に関する協議の件」に関する継続審議の動議



※動議…予定の議案以外に議題を出すこと。動議を提案(提出)することは提議または発議という。ただし、提出された動議そのものを提議または発議と呼ぶこともある。



①水道事業及び公共下水道事業運営審議会の委員の方がメリットを理解していない状況がある ②市民はまだこの議案にも追いついていない ③企業団の経営は健全だが、企業団の単年度損益が前年度より下がっているため、水道料金に関してはもう少し調査研究が必要 ④企業団議会の定数に関して、首長会議での申合せ3要件での協議で、市民の声の反映方法が未確定 ⑤府域一水道についての議論が未達成、以上の理由のため、継続審査の動議を提出しました。

→ 継続審議の動議は成立したが、表決の結果、否決となった。

● 討論「大阪広域水道企業団規約等の変更に関する協議の件」に反対の立場での討論

動議が否決され、①重要項目の明文化 ②市民の眞面愛に市は寄り添ったか ③民間参入やウォーター PPP (官民連携)への懸念 ④市民の声の反映方法が解決されていない、以上の理由のため、本統合素案には反対しました。

※ウォーター PPP…上下水道施設を効率的に維持管理・運営していくための新たな官民連携手法。

動議否決



原案可決



↓ 詳しくはこちらをご覧ください。

箕面市議会 令和8年第1回定例会 本会議第5日(令和8年3月25日)

YouTubeにて視聴が可能です



本会議質疑 教育長人事について

● 第40号議案「箕面市教育委員会教育長の任命について同意を求める件」



本会議質疑で以下の点を質問しました。

- 1点目として、候補者選定の理由について
- 2点目として、政治との中立性について
- 3点目として、教育行政のリーダー像について
- 4点目として、子育てとの両立について



→ 英語教育や外国籍児童の増加も見据え、互いに違いを理解し交流できる力を育むこと、政治的介入や恣意的判断が生じないよう、公正で透明な教育行政運営に努める。子どもの声に真摯に耳を傾け、課題を俯瞰しながら柔軟かつ的確に対応できるリーダーシップと実行力を有している。子育てと職務の両立を支援して教育長自身がロールモデルとなり、多様な人材が活躍できる職場環境づくりを進める。保育所等の利用については個人のプライベートに関わるため答弁は控える。子育て世代の女性が教育長に就任することを契機に、柔軟な勤務時間やテレワークの活用、業務効率化、分担見直し、育児と両立しやす

い職場風土の醸成を一層推進する、との答弁。再質問で、「子どもたちを孤立させない具体策」「現場との連携と学びの保障」を深堀りしました。

→ 地域社会全体で子育てを支える環境づくりに取り組める。教育長自ら現場に足を運び、教職員や子どもとの対話を重ねる、との答弁。

→ 全ての子どもに公平な教育を保障すること、話題性だけでなく、子どもを育てながら公務に携わることが当たり前で尊重される社会をつくる上で重要なメッセージになり、当事者の声を生かす機会と判断し賛成した。

● 見守りおむつ定期便事業

Q 留守置きが増えている現状について

A 平均の対象者は708人、申請者は658人、留守置き件数は94件。3回以上、非対面の場合は市が安全確認を行い、現在1件あったが、保育園に在籍家庭だった。

→ 保育園に在籍していても産後うつや孤独な子育てでないことはない。当初の目的が変わらないよう、子育て支援の顔つなぎ手法としてブラッシュアップを、また、留守置きの継続件数や理由の精査も必要、と指摘しました。

Q 箕面市の待機児童と隠れ待機児童について

実際には保育を必要とし、入園できず困っているにもかかわらず、統計上は待機児童に含まれていない隠れ待機児童は令和8年度各小学校区で何歳が何人いるのか。

A 市独自の待機児童数の定義はなく、国基準。令和8年4月における待機児童数は、未確定。

POINT → 令和7年5月1日時点ではゼロ歳から5歳の特定待機、つまり隠れ待機を含む児童数は北部



浦川 倫子 議員

11人、西部31人、中部53人、東部36人、合計131人。今後引き続き確認するとした。調査の結果、今年度は1歳児37人で地域は明かされませんでした。

Q 多子世帯の保育料減免について

箕面市には独自の多子世帯減免があり、今までは保育料が自動的に算定されていたが（第2子は半額、第3子は無料）、システムの入替えで申請しないと減免されなくなった。子育て政策のサービスの後退ではないか。

A 補助金を設けて保育料の負担軽減のため、サービスの後退ではない。詳しくは市のHPを確認し、申請ください。

<https://www.city.minoh.lg.jp/infancy/nyuuen/documents/tashisetaihoyokinn.html>



Q 就学前保育・教育サービスの必要量、提供量の考え方について

真の待機児童ゼロをめざすならば、生活圈イコール小学校区単位での供給量、立地、保育時間帯を設計する必要がある。箕面市も14校区ごとに必要数と提供数、申込数と保留数を精査し、実態と差異がないように整えていかないのか。

A 国の基本指針では、校区等を参考にサービス提供区域を設定する方向性が示されている、本市では就学前施設には通園区域がなく、施設整備に詳細な区域の制限を設けることは効率が悪いと、市域を細分化せず1つの区分とし現行プランの策定手法を変更する予定はない。

9月議会・12月議会での一般質問の紹介

■ 森林環境譲与税の使い方について質問しました。

Q1 森林環境譲与税を既存の人材育成に加え、農福連携による障害者の自立訓練や就労などの人材育成にも投資してはどうか。

A1 農福連携による人材育成を農業公社で進行中だが、本市の林業の現状を踏まえると、提案された取り組みの実施は困難である。

Q2 (仮称) 新みのおサンプラザ1号館内に整備予定の子育て交流広場に、木製玩具を配置し森とのつながりが実感できる場を本税で設けてみてはどうか。

A2 森林環境譲与税を山麓保全推進事業や、止々呂美地区での間伐などの森林整備事業に活用しており、新たな使途の検討はしていない。

■ SRHR と HPV ワクチンについて質問しました。

Q1 箕面市のHPVワクチン接種の自己決定にあたり、正確な情報を得やすくすることの必要性は。

A1 接種内容の正確な把握が重要。個別通知に接種の効果とリスクを解説した国のリーフレットを同封し、市ホームページにも情報を掲載。

Q2 今後さらに SRHR の視点を教育や人権政策にどのように反映していくのか。

A2 SRHR の視点での性教育等の充実を学校で実施。同視点を持ちジェンダー視点の健康相談や女性の生涯支援を進める。

今回の報告は以上になります。お読みいただき、ありがとうございます。



今後の活動について

常に、市民とともに開かれた議会を目指します。お気軽にお声掛けください。

ともに一緒にずっと住み続けられる街を目指しましょう。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



皆様の気づき、お声が『ちから』になります。

令和8年第1回定例会 本会議第6日(3月26日)
一般質問 動画配信リンクです→



発行者: GreenWind 浦川倫子 発行元: 箕面市西小路4-6-1
TEL&FAX: 072-724-6787(市民クラブ直通)